

図書館の課題解決支援サービス

図書館は本を読むところ、本を借りるところ、そして調べ物をするところとイメージがあります。それに加え地域での課題解決という大きなテーマがあり、近年盛んに図書館にその役割が求められてきています。

そのニーズの高まりを受けて平成22年1月、有志の図書館が「図書館海援隊」を結成し、ハローワーク等関係部局と連携した貧困・困窮者支援をはじめ具体的な地域の課題解決に資する取組をより本格的に開始しました。その後、この取組に対し、他の図書館からも参加希望が寄せられ、それに伴って、医療・健康、福祉、法務等に関する役立つ支援・情報の提供やJリーグと連携した取組など分野も拡大され、参加館数は、平成24年4月現在で50館を超えています。今回は図書館の課題解決支援サービスを特集しました。

県立図書館の課題解決支援サービス

岩手県立図書館では平成21年11月に「ビジネス支援コーナー」、平成23年10月に「震災関連資料コーナー」(※プレオープン、翌年4月に本オープン)、平成26年4月に「くらしコーナー」を設置するなど、地域の様々な課題の解決に向けた図書館資料等の提供を行っています。「資料や情報の提供」といった図書館機能を活かしながら課題解決に向けたサポートに努め、道に迷った方が次に進むための「はじめの一步」となる支援に取り組んでいます。

ビジネス支援コーナー

設置4年目を迎えたビジネス支援コーナーには、働く女性の育児関連書を含むビジネス図書および雑誌が約3,200冊と、パンフレット、リーフレット、ハローワーク求人情報、起業セミナーのポスターやチラシなどを配置しています。また、緊急雇用創出事業を活用し、今までの相談事例や利用者の要望を参考に、関係機関と連携して就労・起業についての資料提供や講演会、起業セミナーの実施、相談に来られた方が次のステップに進むため、あるいは希望を叶えるためのナビゲーションを果すため、産業カウンセラーやキャリアカウンセラー資格を有する相談員2名が業務にあたっています。就業相談は開設当初から続けていますが、最近は事業を興したい方などの相談件数が増えています。

ビジネス支援コーナーの利用状況

| | |
|-----------------|---|
| 日 数 | 235 日 |
| 利 用 者 数 | 713 人 |
| 相 談 (支 援) 件 数 | 1,119 件 |
| 相 談 内 容 内 訳 | ①就 労：279 件 ②起業：25 件 ③履歴書・面接：38 件 ④機関紹介：155 件 ⑤その他：622 件 |

(※平成25年度6月～3月)

1. 相談業務



ビジネス支援コーナー（相談業務の様子）

(1) 就労支援

どうしてもこの業種の仕事に就きたいという方や職場での人間関係、業務改善、雇い止めにあつた方など多岐にわたる相談を受けています。時には相談者が必要とする関連機関を紹介するなど、相談者にとってより良い解決の道が開け

るよう対応に努めています。相談者からは「方向性がわかった」「相談して良かった」と後日、お礼の言葉をいただくことも多くあります。

(2) 起業支援

取得した資格を活かして開業を目指している方、期限を設定してそれに向かって開業を進める方、定年退職後に起業を考えられている方、転職も視野に入れながら開業を考えられている方、漠然と夢を描かれている方など多様な方々が相談に訪れます。起業には「人」「物」「金」が必要であることや「いま解決できること」を伝え、関連機関、図書館資料を紹介しています。

(3) 履歴書・面接指導

履歴書の書き方、職務経歴書の作成方法、添え状の内容等について相談者が作成したものをを見せていただき、アドバイスするなどの支援を行っています。大学生にはエントリーシートの添削などを行い、採用担当者が理解しやすいように曖昧な表現を避け、数字を記載して作成することなどをアドバイスしています。転職が多い方についてはキャリアカウンセリングをし、ご自身の棚卸をしていただき、過去の経歴を顧みながら応募書類の作成を行うなどのアドバイスを行います。書類選考が通って面接を受ける事になったので練習をしたいという方には、別室での面接練習も行っています。

(4) 機関紹介

時に就労の問題とともに心や家庭の問題、ご近所とのトラブルを抱える利用者が訪れることもあります。相談の内容によっては専門的な機関に対応を引き継いだ方が良い場合があり、ハローワーク盛岡やジョブカフェいわて、盛岡商工会議所、法テラス、男女共同参画センターなどと連携し、適宜紹介するようにしています。

心の悩みについては、他の専門機関や通院している病院と相談をするよう話し、「これからのくらし仕事支援室」を紹介する場合があります。

また、家庭問題には「女性センター」や「男女共同参画センター」など、県や市が設置している相談機関を案内しています。ご近所とのトラブルについては、裁判所での簡易裁判、法テラスへの利用なども視野に入れて相談を受けたこともありました。

図書館資料を提供するだけでなく、関係機関との連携により課題解決の選択肢を複数提示することで、「考え方や視野が広がった」、「解決に向かった」との感想や報告をいただくことができました。

2. セミナー（平成 25 年度実施）

(1) 知的財産に関するセミナー

一般社団法人岩手県発明協会との共催イベントです。特許、商標など起業・創業するにあたって注意しなければならないことや、会社経営時に必要になるであろう知的財産権についての知識など、身近な商品を題材に分かりやすく具体的に説明していただき、セミナー終了後も講師と話し込む参加者が多くありました。



知的財産に関するセミナー

(2) 「なるにはBOOKS」シリーズ（ペリカン社発行）セミナー

「なるにはBOOKS」で取り上げられている各種職業をテーマとしたセミナーで、岩手県立大学看護学部教授を講師に迎えた「看護師になるには」、美容事業経営者を講師に迎えた「美

容師になるには」を、それぞれ開催しました。主に高校生が参加され、進路に直結する職務内容から学費、結婚後の就労にいたるまで幅の広い講話と相談をいただきました。もっと講師とディスカッションができるようにすることが今後の課題と考えています。また継続して欲しいと要望をいただくなどニーズがあることを知ることができました。

(3) 創業・経営支援セミナー

平成24年から日本政策金融公庫との共催により取り組んでいます。このセミナーは、ビジネスアイデアの広げ方、事業計画書の作り方など、起業を志している方々への後押しとなっているものと感じています。このようなセミナーを開催することで「会社を起こす」「お店を開く」「農業ビジネス」関連の図書資料の動きが活発になってきました。

(4) メイクアップ講座

子育てを終えて再就労を目指す女性の方などに面接時のメイク方法をご案内する内容で、2回実施しました。後日、参加者から「仕事が決まりました」とうれしい報告をいただきました。

東日本大震災関連資料コーナー

東日本大震災から3年半が過ぎ、あちこちで様々な事業や施設が立ち上がり、復興へと着々と進んでおります。岩手県立図書館では発災直後から、東日本大震災に関連した様々な資料を収集しています。

1枚、1冊の資料が、100年後の歴史資料として、あるいは災害時対応の参考資料となることもあります。また、沿岸部の復興の足跡をたどる手掛かりにもなる貴重な資料であると考え収集・整理を行っています。

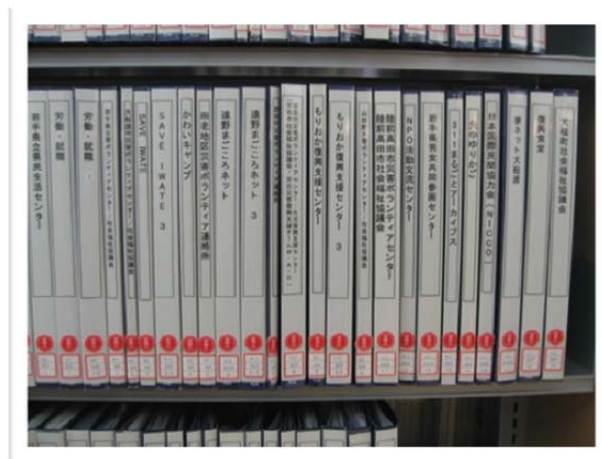
1. 震災関連資料コーナーの概要

東日本大震災の記憶を風化させることなく後世に引き継ぐため、平成24年4月1日「震災関連資料コーナー」を設置しました。地域を支える情報拠点として、災害復興、防災対策などに役立てていただくためにも、震災に関連する貴重な資料の収集・保存を進め閲覧等に供しています。

収集資料は、震災関連図書や報道写真集など各種出版物から、各市町村の復興計画書といった行政資料や避難所だより、ボランティアに関する活動記録など1枚もの資料も多数収集しています。このほかにも、震災直後に発行された臨時広報、新聞、雑誌なども大変貴重な歴史的資料と捉え収集・保存に努めています。



震災関連資料コーナー



一枚もの資料を収めたファイル

2. 催事・他機関との連携（平成 25 年度実施）

(1) 関連催事の企画

① 『復興釜石新聞』編集長が語る東日本大震災～災害時における地域紙の役割～

震災関連資料コーナーの本オープン 1 周年を記念して開催した講演会です。『復興釜石新聞』の編集長である川向修一氏を講師に迎え、東日本大震災時の釜石の様子、同紙発刊までの経緯などをお話しいただきました。津波の恐ろしさや地域に密着した情報を発信する事の大切さについて改めて考える機会となりました。

② 「岩手釜石・大槌復興カメラ展」・「震災復興ポスター展」

震災の風化を防ぐ取り組みとして、図書館内の壁面を活用した震災関連資料の展示を行なったものです。復興カメラ展では釜石・大槌の震災発生時から現在までの様子を記録した写真 104 点を展示、震災復興ポスター展では復興に向けた「思い」がこめられたポスター約 90 点を展示しました。

③ 「わたしたちの使命 赤十字の事業」

日本赤十字社岩手県支部との共催で、東日本大震災における日本赤十字社の救護活動、復興支援の活動を紹介しました。



展示の様子（わたしたちの使命 赤十字の事業）

(2) 他機関との連携

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」へ、当館所蔵資料のデータを提供しています。「ひなぎく」では、図書館や企業など様々な機関と連携・協力し、東日本大震災の記録の収集・保存・提供を行っており、国全体としてのアーカイブの構築に努めています。

このほか、図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」参加各機関と連携・協力しながら、各図書館で震災記録の提供を呼びかけています。

3. 資料を後世に残していくために

震災資料の保存・活用について知識を深めるため、講習会等へ積極的に参加しています。今年度は、国立国会図書館主催の「東日本大震災に関する書類・写真の整理・保存講習会」に震災資料担当者 3 名が参加しました。講習会では、長岡市立中央図書館文書資料室の取組みとして、2004 年新潟県中越大震災時の避難所資料の整理と保存についてなどが紹介され、実際に収集された避難所資料の複製を用いて整理作業を行うワークショップ行いました。当館でもパンフレット、チラシといった 1 枚もの資料を収集していますので、他機関の整理状況を知る良い機会となりました。

4. 成果と今後について

(1) 震災関連資料コーナー所蔵数

震災関連資料コーナーは、震災から半年後の平成 23 年 10 月、3 階郷土資料コーナーの一角にプレオープンしました。この時点では図書、雑誌、新聞、AV 資料、避難所などで貼り出されたり回覧されたりした 1 枚もの資料などを含めて、8,828 点を整理・所蔵していました。翌年 4 月 1 日に本オープンし、3 年を経過した現在、21,632 点の資料を所蔵しています。

日々発行される多くの震災関連資料の整理に、担当職員の奮闘が続いています。

震災関連資料の所蔵状況

| | H23.10 | H26.10 |
|------------|--------|--------|
| 図書 | 1,415 | 3,184 |
| 雑誌 | 4,936 | 6,244 |
| 一枚もの(チラシ等) | 2,380 | 12,028 |
| 視聴覚 | 97 | 176 |
| 計 | 8,828 | 21,632 |

(2) 二次資料の作成

①「東日本大震災情報ポータル」

震災関連資料コーナーのプレオープンに合わせて開設したページです。新聞の記事索引や震災関連資料目録、岩手県の災害史に至るまで、様々な情報を検索することが可能です。

郷土逐次刊行物(東日本大震災発生以降から2年間分)の中から、震災に関連する記事の見出しを採録した記事索引を公開しました。所蔵している震災関連資料及び地域資料の活用と、東日本大震災に関する調査・研究のための情報収集にもお役立てください。

②小学生向け震災関連図書リスト

小学生向けの東日本大震災関連図書を、対象別(低学年/中学年/高学年/全学年・一般)に分けてまとめました。リストの作成に当たっては、『3・11を心に刻むブックガイド』(草谷 桂子//著)やTRC 図書館専用ポータルサイト

「TOOLi」等を参考にしました。読み聞かせや選書の参考にご利用ください。

岩手県立図書館で所蔵していない資料も含まれていますが、「探す」欄をクリックすると、「国立国会図書館サーチ」や「カーリル」から他図書館の所蔵状況を確認できます。

○国立国会図書館サーチ

国立国会図書館が提供している検索サービス。全国の公共図書館、公文書館、美術館や学術研究機関等が提供する資料、デジタルコンテンツを統合的に検索することが可能。

○カーリル

全国の図書館の蔵書情報と貸出状況を検索できるサービス。最寄の図書館、お気に入りの図書館などをあらかじめ指定することで、複数館を対象とした横断検索も可能。

(3) 震災関連資料コーナーから未来へ

岩手県沿岸は、これまでもたびたび津波による被害を受けてきました。繰り返される歴史の中で、先人達はその惨禍を後世に伝えるべく、被害の記録や復興への歩みを資料に残してきました。この記録の積み重ねが現代の私達に示唆を与えてくれるように、今回の東日本大震災の記憶を風化させずに、後世に引き継いでいくことが、図書館としての使命ではないでしょうか。過去の震災からの教訓を活かし、被災地にもたらされる地域課題の解決となる資料の収集、保存に今後も継続して取り組んでいきます。

(4) 震災の記録を図書館に

震災から3年半以上が経過し、震災直後に比べると発行される出版物は減少傾向にあります。それと同時に、現在では震災発生直後に発行された活動記録などを入手することが困難であることも事実です。

岩手県は被災地域が広いこともあり、資料の網羅的収集は難しいものの、県や市町村等への訪問による寄贈依頼や、各団体などにも資料の情報提供と寄贈依頼を継続して行っています。引き続き、震災関連資料の送付及び震災資料に関する情報の提供について、ご協力をお願い致します。



整理作業の様子

くらしコーナーにようこそ!



平成 26 年 4 月、図書館 3 階入口そばの書架に「くらしコーナー」が誕生しました。生活・健康・家庭の 3 つのテーマで構成され、地域や住民が抱える課題の解決を 1 か所でおこなえるよう、便宜を図りました。

また、テーマに関係する機関等からチラシを収集したり、当館発行のパスファインダーやリーフレットを設置したりするなど、資料とともに情報提供もあわせておこなっています。



医療や健康に関する概要や、基本的なことが書かれている、比較的読みやすい本が並んでいます。

手芸や料理本、DIY 関連本のほか、育児に関する本も並べられており、家庭・子育てを応援しています。



健康

家庭

くらし
コーナー

生活

and more...



おもにシニア、教育、家族や生活問題に関する分類を取り上げ、身近な課題の解決を目指します。

テーマに関するチラシのほか、ウェブサイト情報リーフレット『健康・医療情報ウェブナビ』、パスファインダーを設置しています。



パスファインダー 健康・医療情報ウェブナビ

一つのテーマの資料を探す手がかりとして、また図書館を使って調べるときの道標として、就業や医療情報、子育てに関する情報を提供するパスファインダー（調べ方案内）コーナーを配置し、関連図書のミニ展示も合わせて行っています。

本年 9 月には健康・医療情報についての知識を深めたり、医師や医療機関と相談する材料として活用していただくために、リーフレット「健康・医療情報ウェブナビ」を発行しました。

このリーフレットを県内各図書館の窓口などにも置いていただいたところ、「こういうのが欲しかった。市町村ではなかなか作ることができない。県立でやっていただくと助かる」「私たちの図書館でも使いたいし、利用者にも活用していただきたい」と好評をいただいています。

花巻市立石鳥谷図書館の ビジネス支援について

平成 18 年 1 月、花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町の 1 市 3 町が合併することに伴い図書館としても、それぞれの図書館の特徴を活かした運営をしていくために幾度となく集まりを持ちました。それぞれの館が特徴を持ったサービスをどのように進めていったらよいかを考える中で、企業等や流通センターに近い石鳥谷図書館で、花巻市民の就労の手助けと若い世代の職業への意識向上を図るため、ビジネス支援コーナーを強化してサービスを行っていくことになり、現在に至っています。

ビジネス支援コーナー

コーナーには、いろいろな職業を紹介する「なるにはBOOKS」や職業ガイドブックのほか、身だしなみやマナー、パソコンに関する本など、仕事に就くために必要な、考えられるだけのあらゆるジャンルの本を揃えるようにしています。また、求人情報雑誌の購入のほか、『求人ジャーナル』、『Work in』などのフリーペーパーや、盛岡・花巻のハローワークの求人情報など、各事業所にご協力いただき資料を提供していただいています。最近はコーナーもすっかり定着し、多くの方が図書館利用のついでや、求人情報の入手を目的に訪れる方も多く見受けられるようになりました。今後もコーナーの充実を継続していきたいと考えています。

しかし、情報誌や求人情報は新しいものを提供していくことはできますが、図書に関しては「光の交付金」でまとめて購入できたものの、現在は新しい本をまとめて購入できる機会はなくなりました。毎年、少ない予算の中でビジネス支援用の図書だけに予算を充当することも出来ず、数えるほどの資料しか購入できません。ご寄贈いただく本にも限界があります。新しい情報を提供するために図書も充実させたいという思いがあっても、現実はなかなか難しいも

のです。資料の提供のみだけではなく、地元企業や商工会、ハローワークなどに出向き、実態の把握や情報収集もしていかなくてはいけないと考えますが実現できていません。

また石鳥谷は、南部杜氏ゆかりの地ということもあり、南部杜氏関連や酒に関する資料も多数そろえています。全国から集まる杜氏志望の方々へも、多くの資料を提供できるよう努めています。地元で開催される南部杜氏の講習会では、毎年多くの方が受講し、合格の後は全国で南部杜氏として活躍しているそうです。



酒資料室

子ども向けの取り組み

子ども向けのビジネス支援としては、花巻市立図書館 4 館合同事業の中に、平成 24 年度から始めた小・中・高校生対象の「花巻市こども読書くらぶ」があります。



平成 25 年度花巻市こども読書くらぶ活動（養豚業生産者からの講話）

平成 25 年度からは幼いころから仕事や働くことに対し意識を高めてもらおうと「はたらく」、平成 26 年度は「しごと」をテーマに、職場訪問や体験などと合わせ、仕事に携わっている方々からお話を聞く会を設け、図書館をメインに活動しています。

関連事業として、今年の夏休みに「仕事ってどんなものがある？」の展示と、夏休み期間中の半日、小・中学生を対象に「就活ゲーム — なりたい自分になってみよう」を開催しました。

企画展示では、仕事や職業に関連した調べ学習資料や仕事をするうえで必要なマナーの本などを展示しました。

就活ゲームは、本に掲載されている職業適性診断ゲームをもとに作成したのですが、そのゲームに入る前に、まず自分の履歴書を書いてもらいます。履歴書は、一般的に購入できる履歴書用紙をもとに、子ども用に作り直したものです。将来の自分を思い描きながら、入ってみたい高校や大学を考えたり、自己紹介として得意な教科・習い事・自分の長所・短所を書いて、最後に自分のやってみたい職業について書いてもらうものです。



就活ゲーム（「履歴書」書きに夢中）

“ゲーム”の言葉に釣られて参加した子どもたち 10 人弱でしたが、最初は「難しい！」「ゲームじゃない！」と言っていました。真面目に取り組んでいただき、最後には楽しかったと感想を書いてくれました。生まれて初めての「履歴書」書きは、自分を改めて見直す良い機会に

もなったようです。また、仕事に対する意識が少し変わったようにも見受けられました。今回は、企画側も手探り状態で準備が不十分でしたが、来年度は企画側も参加者側もレベルアップできるものにしていきたいと考えています。

人材の発掘

今年度から「実はすごい！石鳥谷の『匠』コーナー」というものを始めました。これは、地元の人材発掘事業として、ジャンルを問わず、技術を持ってそれを職業とし、地元で頑張っている方を毎月一人取り上げ、その方の仕事や人物を紹介するコーナー展示事業です。この事業を始めるきっかけは、自分が石鳥谷図書館に異動して 3 年目になりますが、まだまだ知らないことばかりでもっと人や地域を知りたいと思ったのがきっかけでした。

知る人ぞ知る。具体的に何処に、どんな方がいらっしゃるのか。その方たちにスポットを当てることで、石鳥谷の人材バンク的なレファレンス資料ができあがるのではないかと考えた人物掘り起し事業です。

当館職員が順番で人材を見つけ出し、企画書を作成し、ご本人との連絡、取材から資料作成までを行います。一か月間の小さなコーナー展示ですが、ご本人から借りてきた作品や資料、お仕事情報のパネル展示を行います。また図書館にある関連資料も置いて貸出しも行います。現在、雑貨職人、豆腐職人、染め職人、コーヒー焙煎職人と 4 人の方を取り上げました。今後も取り上げる人物がいる限り、続けていきたいと考えています。

ビジネス支援コーナーの本の充実も必要ですが、今後も本の貸出だけではなく、多角的に仕事を捉え、各年齢層にあった支援をしていきたいと考えています。

大船渡市立図書館 復興に向けた課題解決サービスの提供

大船渡市立図書館は、平成20年11月、大船渡市民文化会館と一体化した複合施設(愛称リアスホール)として移転・整備されました。現在、6年目を迎えようとしています。

ビジネス支援コーナー

昨年10月19日、館内に起業支援室と共同しビジネス支援コーナーを開設しました。当時、県内の市町村立図書館でビジネス支援コーナーを設けている図書館は少数であり、沿岸の公共図書館では初の試みとなりました。



ビジネス支援コーナー入口

当市においても、県内沿岸他市町村と同様に、東日本大震災の市民生活に与えた影響は多大であり、被災した市内産業復興のため、生業の再生は大きな課題となっています。そこで、当市では起業支援を総合的に推進し、地域産業の振興及び雇用の促進を図ることを目的に、平成25年4月、商工港湾部内に設置した起業支援室を軸に、市を挙げた起業施策を展開しています。図書館でのビジネス支援コーナーの運営はその取り組みの一環をなすものと位置付けています。

コーナーを設置するにあたり、全国に先駆けてビジネス支援コーナーを設置したとされる秋田県立図書館や先進事例とされる鳥取県立図書館などの取り組みについて情報の収集を行いました。そのなかにあって、起業支援室職員と同

行した岩手県立図書館の視察は、多くの刺激を受け、とりわけ重要だったと思います。多くの公共図書館が取り組んでいる課題解決サービスの考え方は承知していたものの、ビジネス支援についてノウハウが無い私たちにとって、具体的なサービスを目の当たりに出来たことは、たいへん参考となりました。

配置している資料は「会社の起し方」や「お店の始め方」のような起業に関する図書や法律関連図書、「資格の取り方」「履歴書の書き方」「面接の受け方」などのいわゆる「就活」関連の図書、そして経済情報や社会情報を取り扱った雑誌やビジネスの指南書など、およそ550冊となっています。くわえて、融資・補助等の助成制度に関する行政や関係機関のパンフレット、著名企業のパンフレット、各団体から図書館に寄贈される冊子などから起業のヒントになり得る産業に関するものなども積極的に配置しています。また、起業支援室と連携している東北未来創造イニシアティブを通じて、著名な経営者から寄せられた直筆メッセージや推薦図書、震災後に市内で起業した事業所のパネルなど、起業の気概を伝える展示も行っています。



ビジネス支援コーナー書架

運営に関しましては、利用者より起業に関する相談があった際は、まず図書館職員が資料提供やレファレンス等に対応します。起業についてのより具体的な相談や高度な問い合わせの場合は、起業支援室に引き継ぎ、専門的な対応とする流れとしています。

コーナーの利用状況は、読書のための本を探しに立ち寄る一般の利用者が多いものの、明確な目的（カフェの開業、ホームヘルパーの資格取得、調理師として就職する、農業経営について学ぶ など）をもって訪れる方もおり、資料を調べたり長時間滞在されたりもします。また、コーナーの利用により、求める情報が見つかり、喜んで帰られた方もいます。

利用の傾向は、起業を目的にするよりも、スキルアップや就職につながる情報を求める方が多いようですが、コーナーの利用が契機となり、起業支援室が行うセミナーを継続的に受講される方もいるなど、少数ながらも起業を志向した利用者もおられます。

ビジネス支援コーナー開設から1年が経過しましたが、目に見える形を持った成果までは確認できていないのが現状です。しかし、住民が利用する上で抵抗が少ない施設である図書館に起業・仕事に関するコーナーがあることは、起業をはじめ雇用や就職の一助や復興に向けて市を挙げての取り組む空気を伝えるものとして機能していると考えます。また、現在の図書館に求められる課題解決型サービスの提供について、大船渡市立図書館に具体的に行う場を設けられたことは、今後のサービスの方向を考える契機となったと思われます。図書館の取り組みの成果の検証は長いスパンで見る必要があると思われるので、継続的に取り組む必要を感じています。

今後としましては、情報の鮮度が重要なビジネス関係の資料の充実を図り、利用者への情報提供に努めることはもちろん、ニーズを取り入れながら、各部局、関係団体と連携、あるいは活用しながら、利用者の思いが結実するようなサービスの提供を目指してまいります。

東日本大震災関連資料の収集

復興に向けた取り組みとして、ビジネス支援コーナーと並び重視しているのが、東日本大震

災に関する資料の収集です。

被災自治体として、東日本大震災の実態や記憶を正しく伝え、風化させること無く後世に引き継ぐことは責務であり、日々世に出る記録集や体験記等の関連図書を集めるのは図書館のみであるとの思いを持ちながら、団体、個人を問わずさまざまな記録文献や発行物などの収集に網羅的に取り組んでいます。



震災資料コーナー

収集にあたっては、市広報、ホームページ、地域FM、館内掲示などで呼びかけるとともに、新聞等で情報を把握し、購入あるいは寄贈をお願いしています。

収集した資料の展示は、図書を中心に震災関連図書コーナーを設けて行っています。このコーナーには東日本大震災をはじめ過去の津波被害に関する資料も配架しています。市沿岸部が大きな被害を受けるなか、リアスホールは幸いにも浸水を免れ、施設の被害も比較的軽いものでした。図書館資料の散逸も貸し出し中の資料など一部で済みました。そのこれまで収集を続けていた過去の津波の資料と大震災の記録を併せ持つことで、今後の防災対策やまちづくり、津波教育に活用し、震災からの復興に役立つコーナーとなることを期しています。

震災関連資料は、出版された書籍をはじめ、調査報告書、研究書、広報紙、パンフレット、チラシなど、多岐に、また膨大な量となります。これらの資料を整理し、供覧できるよう整備することを現在の課題として取り組んで参ります。